

令和 8 (2026) 年度 芸術 科 シラバス

科目	音楽 I	単位数	2	履修規定	1年 全クラス	文系	必修
教科書	MOUSA1(教育芸術社)		副教材	MUSIC NOTE(啓隆社)		担当者	金子侑樹

1. 学習の達成目標

歌唱、器楽、鑑賞等の幅広い活動を通して、我が国及び諸外国の様々な音楽に触れ、感性を働かせ、音や音楽を形作っている要素を捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景とを関連付けることで、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。このことで音楽文化を継承・発展、創造することにつなげ、音楽を愛好し豊かな人間性や社会性を養う。

2. 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

○「歌唱」に関しては、表現に関わる知識や技能を身につけ、個性豊かに創意工夫していこう。上手下手でなく積極的なチャレンジをしよう。
クラシックから最近のポップスの曲まで、様々な曲種独特の発声や表現形態を知ろう。
○合唱や合奏は、文字通り「アンサンブル＝他者との調和」が大切です。音色や演奏法に関わりを楽しみ、音によるコミュニケーションを楽しもう。
○「鑑賞」に関しては、音楽の特徴と文化的・歴史的背景や他の芸術との関わりを感じながら、それぞれの音楽の良さや素晴らしさを味わおう。

3. 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりについて理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組むこと、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を豊かなものにしていく態度を養う。
主な評価方法	・歌唱テスト ・リコーダーまたはキーボードの実技テスト ・筆記テスト	・歌唱テストや器楽実技テストについての自己評価・感想 ・楽曲についてのグループ学習 ・鑑賞記録	・合唱や器楽アンサンブルでの意欲や対話的活動 ・実技への取り組みと実技テスト

4. 学習および評価計画

※評価の観点:(a)知識・技能、(b)思考・判断・表現、(c)主体的に学習に取り組む態度

月	学習項目	学習内容	評価基準	考查範囲	時数	
前期	4	①今月の歌 ②ドイツ・リート ③楽典	①校歌、翼をください ②春への憧れ(1部原語) ③音符とリズム	・校歌の意味・解釈が理解できている(b) ・楽曲に対して、発声法・呼吸法を意識して、正しい音程・リズム等で演奏できている(a)	第1回 歌唱実技テスト 既習曲を独唱 ・音程やリズム ・歌詞の正確さ ・音楽的な解釈と表現	14
	5	①今月の歌 ②ドイツ・リートとカンツォーネの歌唱 ③楽典	①A Whole New World ②野ばら(1部原語) ③オー・ソレ・ミオ(原語) ③音名	・楽曲の原詩の持つイメージを理解し、表現しようとしている(b)		
	6	①今月の歌 ②イタリア古典歌曲の歌唱 ③楽典	①空もとべるはず ②Caro mio ben(原語) ③強弱記号	・世界各国の歌曲・音楽の特徴・文化を理解しようとする(b)		
	7	①今月の歌 ②ミュージカル・ナンバーの歌唱 ③楽典	①夏の思い出 ②エーデルワイス ③表情記号	・ミュージカルの素晴らしさ、音楽と劇との関わりを感じ取る(b) ・ミュージカルの内容を理解し、そのナンバーを表現する(a)	第2回	14
	8	①今月の歌 ②ミュージカル鑑賞	①少年時代 ②映画「サウンド・オブ・ミュージック」	・クラシックとポップスなどのさまざまなジャンルに親しむ(b)		
9	①今月の歌 ②ミュージカル・ナンバーの歌唱	①少年時代 ②サウンド・オブ・ミュージック		第3回 授業時間内で筆記テスト(楽典・楽曲の理解・西洋音楽史等)	20	
10	①今月の歌 ②合唱曲 ③楽典	①赤とんぼ ②合唱曲「聞こえる」 ③楽曲中の音楽用語	・合唱曲を通して、自分のパートの音程やリズムを正確に演奏する(a) ・合唱曲の内容を理解し、歴史的背景や世界の情勢について考える(b) ・アンサンブルをする大切さ、協働する喜びを感じる(c)			
11	①今月の歌 ②合唱曲 ③西洋音楽史	①ダニーボーイ ②合唱曲「聞こえる」 ③西洋音楽史概説と鑑賞				
後期	12	①今月の歌 ②ミュージックベル(トーンチャイム)	①クリスマス・ソング ②バロック・古典派時代の鑑賞	・音楽史を学び、いろいろな国の音楽の知識が身についている(b)	第4回	22
	1	①器楽リコーダー・アンサンブル ②学習発表会に向けて	①見上げてごらん夜の星を(リコーダー)	・楽器の演奏を通して、技術が身につくにつれ楽譜を読む力がつく(a) ・演奏する曲を理解し、その曲に合った表現ができる(b)		
	2	①器楽リコーダー・アンサンブル(キーボード) ②学習発表会に向けて	①見上げてごらん夜の星を(リコーダー)	・仲間と一緒に演奏することで協調と協働する喜びを感じる(c)		
3						

令和 8 (2026) 年度 芸術 科 シラバス

科目	書道 I	単位数	2	履修規定	1年 全クラス	必修
教科書	書 I	副教材			担当者	齋藤

1. 学習の達成目標

漢字、かな、漢字かな交じりの書、篆刻など書の各分野の学習を通じて、豊かな人間性や社会性を身につけさせ、国際社会に生きる日本人としての寺閣を育成する事を旨とする。(1) 実社会に必要な書道の知識や技能を身につけるようにする(知識及び技術) (2) 豊かに創造し表現する活動を通じ自分の思いや考えを広げたり深めたり表現できることができるようにする(思考力、判断力、表現力) (3) 書が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって書道に親しみ、事故を向上させ、わが国の書道文化の担い手としての自覚を持ち書を通じて他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう態度人間性等)

2. 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

○社会生活を円滑に営む上で必要なコミュニケーションの基となる「書く力」を身につける為に大切な授業です。それぞれのねらい・目的を意識しながら積極的に取り組んで下さい
 ○書いた文字は身近な筆記用具で書いてみるなど、授業後は振り返って内容を確認して下さい。
 ○授業中は、書くだけでなく、その書かれた時代背景や筆者なども考えを巡らせて下さい。
 ○書道の伸長を図ることは、短時間で効率的にできるものではありません。日頃から新聞、活字、看板、展示品に慣れ親しむことで書写書道の表現力の幅を広げ豊かな書道の力を身につけるよう心がけましょう。

3. 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	実社会での課題解決につながる書道の知識や技能を身につけて適切に使っている	多様な他者と共の高め合い認め合いながら書写書道力を高め、自分の思いや考えを表現したりしている	書道の価値への認識を高め、深めると共に自分の表現を、相手にわかりやすく関わろうとする
主な評価方法	・作品提出による(知識、技能の提出による)結果	・学習活動・作品提出	・授業中の初弁内容や行動観察・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4. 学習および評価計画

※評価の観点:(a)知識・技能、(b)思考・判断・表現、(c)主体的に学習に取り組む態度

月	学習項目	学習内容	評価基準	考查範囲	時数
前期	4 書道概要	書写と書道の違い	・書写書道の違いが理解できている (a) ・かな書道の筆遣いが理解できている(b) ・変体仮名の知識が身につけている (b)	第1回	14
	5 かなの書の学習	古筆の臨書 変体仮名の習得 半懐紙への制作			
	6 篆刻の学習	・氏名印の制作	・氏名が篆書で理解できている (a) ・篆刻の技法が習得できている (b)	第2回	14
	7 楷書の学習	・初唐の楷書の臨書	・初唐楷書の技法が習得できている (b)		
	8 楷書の学習	・楷書による創作	・楷書の創作が理解できている (a) ・他者の作品を理解しようとしている (a)		
	9 楷書の学習	・楷書による創作			
後期	10 行書の学習	・蘭亭序の学習	・蘭亭序について歴史的な理解ができて いる(a) ・行書による創作ができて自分の 表現ができている(b)	第3回	20
	11 行書の創作	・行書による創作			
	12 漢字かな交じりの書の学習	・漢字かな交じりの書の学習	・漢字かな交じりの書の学集が理解 できている(a) ・好きな言葉、詩歌などを積極的に 表現しようとしている(c) ・言葉や詩歌などの意味を熟考し 相手に理解しやすそうに表現 を工夫している(b) ・隷書の筆法を理解しようと積極 的に授業に取り組んでいる (a) ・自分の思いや気持ちを工夫して 書	第4回	22
	1 漢字かな交じりの書の学習	・条幅作品への漢字仮名交じりの 書の 応用学習			
	2 隷書の学習	・初歩的な隷書の学習			
3					

令和 8 (2026) 年度 芸術 科 シラバス

科目	美術 I	単位数	2	履修規定	1年 全クラス	文理	必修
教科書	新・高校生の美術1(日本文教出版)	副教材				担当者	勝野

1. 学習の達成目標

美術の諸活動を通し、造形的な見方、考え方の知識や理解を深めるとともに、技能を身に着け、自分の思いや考えを表現する力を高める。自分の表現を大切に育みながら、生活や社会の中の美術との関りを理解し、美術文化の価値を深く感じ取る態度や担い手としての自覚や能力を養う。

2. 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 人それぞれに独自の捉え方、表現、発展のペースがある。うまい下手にとらわれず、自分の思いや考えなどを大切にしよう。
- 課題の重みに耐え、自分で答えを出していくところに創造性が発揮される。やり遂げる強い気持ちを持って取り組もう。
- 美術展に出かけたり、美術書や様々な文化・芸術に触れたり、描いたり、作ったりなど美術体験を積極的にしよう。
- 美術に限らず、社会の出来事に関心を持ち、人のあり方、生き方などを考えることも大事なことです。

3. 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の趣旨	対象は事象を捉え、表現する造形的な視点、基本的技能、知識について理解を深めている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きについて考えている。主題を生成し、発想や構想を練ることができている。	美術や美術文化と積極的に関わり、主体的に表現および鑑賞の創作活動に取り組もうとしている。
主な評価方法	・学習活動、作気品 ・ワークシート等の提出物 ・小テスト等	・学習活動、作品 ・スケッチブック等の提出物	・学習活動、作品 ・自己評価や制作意図などの記述 ・出席状況や提出物 ・課外での自主的取り組み

4. 学習および評価計画

※評価の観点:(a)知識・技能、(b)思考・判断・表現、(c)主体的に学習に取り組む態度

月	学習項目	学習内容	評価基準	考查範囲	時数		
前期	4	オリエンテーション 鑑賞及び方法	・美術とは、心構え ・アウトプット・4ステップ鑑賞法 ・鉛筆の使い方 ・造形的な捉え方・見方 ・質感、実在感の表現	・美術学習への意欲が高まっている。(c) ・方法を理解し、活用して鑑賞できている。(a,b) ・造形的な捉え方・見方が理解できている。(a,b) ・構造的把握、立体感の表現ができている。(a,b) ・実感、実在感の追求までできている。©	第1回	14	
	5	デッサン基礎 円柱を描く					
	6	黒いびんを描く					
	7	色彩の基礎、混色	・色相環を作る。 ・一次色の理解と混色 ・色彩の基本知識 ・筆の使い分け、平塗りのし方	・色彩の基本的なことを理解している(a) ・ねらった色を作ることができる。(b) ・美しく仕上げることができる。(b,c)	第2回	14	
	8	絵の具と美術史 ジャポニズム 想像の景観・生物を考える	・青絵具の歴史 ・北斎と近代絵画 ・日本の美術 ・発想と工夫の視点の理解 ・発想トレーニング	・絵の具への関心が高まっている。(c) ・絵の具の発展と近代絵画の歴史が理解できている。(a) ・日本美術の近代絵画への影響が理解できている。(b) ・景観・生物の不思議さを表現できている。(b)			
	9	鑑賞 造形的視点で絵を見る 心を覗く目(彫塑)	・フォーカルポイント、リーディングラインなどの理解と作品の考察 ・骨格、構造の理解 ・彫刻の要素 ・素材の特性を活かして表現	・造形的視点で絵を考察し、鑑賞できている。(a) ・骨格、構造の理解ができている。(a) ・彫刻の特性を活かして表現できている。(b)			
	後期	10	日本美術の理解・鑑賞 模様のデザイン	・日本美術の特徴(平面性、装飾性、余白、時空間の表現など) ・模様の役割 ・文化と風土	・日本の美術への関心が高まっている。(c) ・生活の中での役割、文化や風土との関連について考えが深まっている。(b)	第3回	20
		11	妖怪(空想生物など)による表現	・妖怪(空想生物)表現の歴史、発想の視点 ・自分と社会、文明と人間、環境等を見つめて主題の生成	・主題を明確にできている。(c) ・ふさわしい妖怪の表現ができている。(a,b) ・造形的に効果的に表現できている。(b)		
		12				第4回	22
1							
2		西洋美術史	・現代美術までの変遷 ・美術 I の振り返り	・現代美術までの流れを理解できている。(a) ・今後に向けての課題・目標等を持っている。©			
3							